

(16) 医学教育部会

教育部会名	医学
部会長名／作成者名	三浦 靖史
概 要 (2 ページ)	
(1) 組織・運営について ・部会構成、実施体制など 医学教育部会は、「医学 A」、「医学 B」、「生命科学 A」、「生命科学 B」、「保健学 A」、「保健学 B」、「健康科学 A」、「健康科学 B」の 8 つの講義を、各クォーターに 2 つずつの配分で、医学部保健学科と医学部医学科/医学部附属病院の所属教員が、オムニバス方式で担当して開講している。8 講義の主担当教員計 6 名が代表となつて、医学研究科の教務学生係の支援も得て、オムニバスで担当する部会所属教員の講義内容とカリキュラムの調整、シラバスの作成を行うとともに、授業の改善に関する検討は各教員からの意見を集約して、教育部会長ならびに幹事と調整して実施しており、従来通りである。 (2) 実施状況について ・開講科目とカリキュラムは以下に記すとおりである。 医学 A：現代社会の中で、大学生、社会人として生きていくためには、ストレスの理解、自己健康管理のノウハウを身につけておくことは必須であり、このような目的に即した基本的知識を修得する。 医学 B：現代社会は環境変化により新しい感染症も未だに出現するため、どのような対応策が未来社会においてあるのか学ぶ必要がある。一方、老化という問題はさけては通れず、老化に伴い動脈硬化が起こり、疾患が増加するため、若いときから、スポーツにより身体の健康を維持するなどの基礎知識を修得する。 生命科学 A：身体の構造を基本とし、機能と、さらにはその異常である病気までを統合的に学ぶことをテーマとし、生命と健康に関する関心を高め、各自の健康づくりに役立てることができるような知識を習得する。 生命科学 B：健康管理に必要な、ヒトの身体の様々な機能に関する知識を中心に、その機能に異常が起きたために生じる病気や構造の異常を、多様な視点から学ぶことをテーマとし、自分自身での健康管理ができるような知識を習得する。 保健学 A：日本に長寿社会がもたらされたのは病気の予防対策や検診などを初めとする保健学の進歩のおかげである。一方で、新しい感染症の出現や人口構成の変化に伴う病気の変化など新しい課題が生じており、感染症、細胞の機能、アルコールの影響、長寿社会と高齢者の保健、生活リズム、保健、メンタルヘルスについての知識を修得する。 保健学 B：近年の医療の進歩により、がんのような悪性の病気であっても、病状をコントロールして生存できるようになった。しかし、良い治療成績が得られるためには、早期診断と早期治療、そして健康管理が欠かせない。そこで、重要と考えられる生活習慣病、がん、神経機能、女性の健康の基礎知識を習得する。 健康科学 A：我々が毎日、食べたり、運動したり、物を見聞きし考えたり、眠ったりしていることは当たり前のことのようにだが、全ての身体の機能が順調に機能していて初めて可能であり、健康に関する基礎知識を習得する。 健康科学 B：病気や怪我になって初めて健康のありがたさが分かる言うように、健康であればあるほど健康については関心が薄くなりがちである。そこで、健康管理の対象となる心と身体について、それらの機能とも関連づけながら学ぶことにより、自身の健康への興味を高め、健康管理ができるような知識を習得する。 ・今年度の工夫・改善点 ① 対面、②リアルタイムオンライン、③オンデマンドと、科目により開講方法の相違があるが、①対面で実施する場合を除いて、遠隔講義による高い教育効果を実現することを目的として、遠隔講義を中心にして実施した。学生の受講場所等を考慮し	

て、遠隔講義の方法は、③オンデマンド配信を主体としたが、一部は、リアルタイムでのコミュニケーションを重視した結果、Zoom を用いた②リアルタイムオンラインでの講義となった。R2-5 年の 4 年間の遠隔講義の経験に基づき、各担当教員が遠隔システムを用いた講義に習熟しており円滑に講義を実施することができた。これには複数のメリットがあり、①オンデマンド方式での遠隔講義を実施することで、学生の受講方法の柔軟性を高める、②部会が担当する医学関連の科目では、症例写真や手術動画等、鮮明な画像や図表を見ることが理解の促進に有用であるが、大規模教室でのスクリーン投影より、手元の PC 等で鮮明に、さらには必要に応じて繰り返して閲覧できることで学修を促進することができた。また、クォーター制が導入されて以降、教養科目として相応しい内容となるように、オムニバス形式の特性を最大限に活用して、8 回の期間内に多様性に富む講義が行われるように教員の専門性を考えた担当割を実施している。なお、講義の実施に当たっては、部会長及び幹事から、主担当教員を通じて分担教員に過去の講義アンケートで指摘を受けた事項、刺激の強い医療系スライドの使用の再考、使用が必須の場合には事前に学生にそのようなスライドのある旨を周知するようにとの注意事項を伝達している。

・現状と評価

医学教育部会担当の 8 科目は共通して、生命、健康と病気に関する正しい知識と、自己と他者の健康への配慮の基礎となる知識を得られることを目標にしており、医学部で行われるような専門的な疾病論の講義でなく、学生が健康管理への多面的な関心が高められるように工夫している。このように、部会が担当する各科目は、社会的に重要な健康や病気に関する内容を幅広く取り上げており、全体として学生の多様なニーズ、学術の発展動向、特に感染症に関する内容は、新型コロナウイルス感染症対策が求められる中、社会からの要請等の趣旨に十分に沿ったものであると考えられる。

一方、医学教育部会が担当する教養科目の授業形態は講義に限られており、また、遠隔講義を実施したため、学生個々に対するきめ細かな指導や、少人数・対話討論型授業等の形式による講義を取り入れることは困難であった。しかし、教材としてパワーポイントや画像と動画を使用しているほか、BEEF+を用いた講義資料の配布を、学生の要望に添って行っていることで、現状は適切であると考えられる。

成績評価においては、シラバスに成績評価基準が詳細に明記されており、その基準に従って定期試験成績に基づいて厳格に成績評価と単位認定が実施されており、科目によって、試験かレポート提出かの何れかで成績評価を行った。また、各担当教員間での成績評価に極端なばらつきがないか主担当教員における成績集計に際して確認して、成績評価の客観性と厳格性を担保するための措置を実施しているが、レポートの点数分布は高得点に偏りがちであった。しかし、授業評価アンケート、成績評価の分布等からは学習目標の達成度は概ね良好で、学習成果は十分に上がっていると考えられる。

(3) 課題について

・医学教育部会の特性として 2 つの遠隔地キャンパスに勤務する教員で構成されること、全ての科目がオムニバス形式で開講されていること、特に医学科・附属病院に所属する構成教員は、毎年多数が入れ代わるため、新担当教員に対して周知事項の徹底に務めているものの、全学共通教育に不慣れな教員が講義を行わざるを得ないという部会特有の課題は継続したままである。さらに、遠隔講義では全学共通教育を受講する医学部以外の学生と直接触れる機会が乏しいことから、対面できなくても学生とコミュニケーションの機会が持てるように、部会として引き続き努力を行う必要がある。

(4) 総合所見

以上、概略的には、医学教育部会が担当する 8 つの教養科目の講義においては、概ね目標を達成していると評価できると考えている。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

2 つの遠隔キャンパス（名谷・大倉山）に所属している部会員を、キャンパス毎に 4 講義の担当に分け、主担当教員 8 科目 6 名が中心となって、両学科の教務学生係の支援も受けながら、各科目をオムニバスで担当する構成教員の講義内容とカリキュラムの調整、シラバスの作成を行っているが、円滑に講義が実施できていると考えている。

根拠資料

教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的にやっているか（100 字程度）

学生から寄せられた授業評価、試験成績分布と合格率に関しては、主担当教員を介して、各分担教員にフィードバックすることにより、教養教育の質の保証に努めていると考えている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果、成績分布、合格率

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

BEEF+に講義資料をアップロードすることで、過去にあった配付資料不足は生じなくなった。このようにリモート講義を活用することで、以前に指摘を受けた問題点が改善できていると考えられることから、取り組みの成果は確認されていると考えている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか（100 字程度）

部会員が所属している保健学科、医学科・附属病院では、組織的なFD活動が活発に行われている。遠隔地キャンパスであることから、教養教育院におけるFDへの参加は通常は容易ではないが、部会としてFDは組織的に実施していると考えている。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（教養教育委員会資料）

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

医学教育部会の担当科目はいずれも、TA/SA等を採用していないため当項目は該当しない。

根拠資料

TA/SA等の採用がないため、該当しない。

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

医学、保健学、健康科学は、専門分野以外の主要な学問分野について基本的な知識及びものの見方を学修することを目的とする一方、生命科学は多文化に対する理解を深め、多分野にまたがる課題を考え、複眼的なものの見方、課題発見力を養成することを目的としている区分ごとの学修目標に対応していると考えている。

根拠資料
シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

保健学科においては部会長が、医学科・附属病院においては幹事が、両科の教務学生係の支援を得て主担当教員を通して、授業担当者に共通目標についてシラバスを用いて周知しており、到達目標が共通目標に沿ったものになるように配慮がなされていると考えている。

根拠資料
シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

医学教育部会の授業科目の内容は、我々が日々生きていく上で必要な健康管理について、基礎から臨床医学までを学ぶという共通目標を達成できるように構成されており、到達目標を達成していると考えている。

根拠資料
シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

シラバスや講義の概要説明で、合格点に到達するには、十分な予習と復習が必要であることを周知し、予習・復習の学修を促すことで、単位の実質化への配慮が十分にもなされていたと考えている。

根拠資料
シラバス、レポート課題

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

科目の性質上、授業形態は主にオンデマンド配信で実施されているため、学生一人一人へのきめ細かな指導や、少人数・対話討論型授業等の導入は不可能であるが、教材として画像供覧と動画を使用しているほか、講義資料の配布等の学生の要望に添った対応を行っていることから、概ね適切な講義が行われていたと考えている。

根拠資料
シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準

備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

シラバスの必須記載項目は全て記載されていることを確認しており、学生の準備学習を進めるための基本となっていると考えている。

根拠資料
シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

部会員は大倉山キャンパスか名谷キャンパスに本務先があるため、履修指導の体制は電子メールを主なコミュニケーションツールとして整備している。このことは、学生らのコミュニケーション手段がメールや SNS が主体となっている現代に適合しており、履修指導と助言は適切に実施されていると考えている。

根拠資料
シラバス、学生とのメール交信記録

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

部会員は大倉山か名谷キャンパスに本務先があり、講義は主にリモートで行われているため、学習相談の体制は電子メールを主なツールとしてリモートでの学習相談システムを整備している。このことは、リモート講義と整合性が取れた対応であり、学習相談に際する助言と支援は適切に実施されていると考えている。

根拠資料
シラバス

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

各科目の成績評価は、試験あるいはレポートによって厳格に実施されている。とは言え、オンデマンド講義を主体とした科目では全体に成績が良好になりがちであることから、各担当教員間での成績評価に極端なばらつきがないか主担当教員における成績集計に際し確認し、さらに、秀・優評価に極端な偏りがないかを部会において確認することにより、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていると考えている。

根拠資料
シラバス、試験答案、レポート、成績分布（教養教育委員会資料）

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

自己点検・評価報告書に基づく学習目標の達成度は概ね良好であり、適切な学修成果が得られていると考えている。

根拠資料
自己点検・評価シート、授業振り返りアンケート結果